

なぜなにタックル！！～耐震対策編～

担当：インターン生・石井 良行（中大2年）

大学生の私が、タックルレポートで素朴に感じた「なぜ？」「何？」を調べるコーナー、今月は『議会報告』の質問内容にもあった、倒壊と耐震対策について調べてみました。

Q. もし、自分の家が大地震にあったらどこが危ないだろうか？



（図1：隙間の見つかった本棚の裏）



（図2：タンス上に積まれた戸棚類）

もし、阪神大震災や新潟県中越地震と同クラスの地震が神奈川で起こったら、その被害は少なからず自宅にも及んでくるでしょう。図1は、私の自室にある本棚の写真です。固定する金具はおろか、5センチ強の隙間がありました。一方、両親の寝室のタンスには転倒防止用に板が入っていましたが、図2のように戸棚を何段も積み重ねています。もし、これらが地震の強い揺れで自分に向けて倒れてきたり、落ちてきたらどうでしょうか？見慣れた家の風景にも、隠れた危険が潜んでいるのかもしれない。

しかし、私は具体的にどのような対策をすればいいのかわかりませんでした。そこで、私は家具別の耐震対策を調べ、以下の表で簡単にまとめてみました。

種類	主な対策方法
タンス・棚類	L字金具や支え棒・つっぱり棒で固定、二段重ねのものは金具で連結。本棚は、ゴムバンド等を掛け、上に重いもの・壊れやすいものは置かない。
テレビ・パソコン	なるべく低い位置に置き、滑り止めやバンド等で固定、上に物を置かない。
窓・ガラス類	戸棚、額縁等のガラス面すべてに飛散防止フィルムを貼っておく。
照明器具	吊り下げ型には揺れ・落下防止のためにチェーンや金具で数箇所留める。
冷蔵庫	専用のバンドや針金で、壁面に直に通して固定する。

皆さんも、休日などを利用して少しずつ取り組んでみてはどうでしょうか？